

これからの小都市の公共交通 の利便性の向上に向けて

①コミュニティバスの現状と課題について

●問合せ先 都市計画課計画係 ☎72・2111



高齢者ドライバーによる交通事故の増加や運転免許証の返納により、公共交通の重要性は年々高まっています。これからの公共交通の充実に向けた市の取組について、全4回にわたってお知らせします。

■はじめに

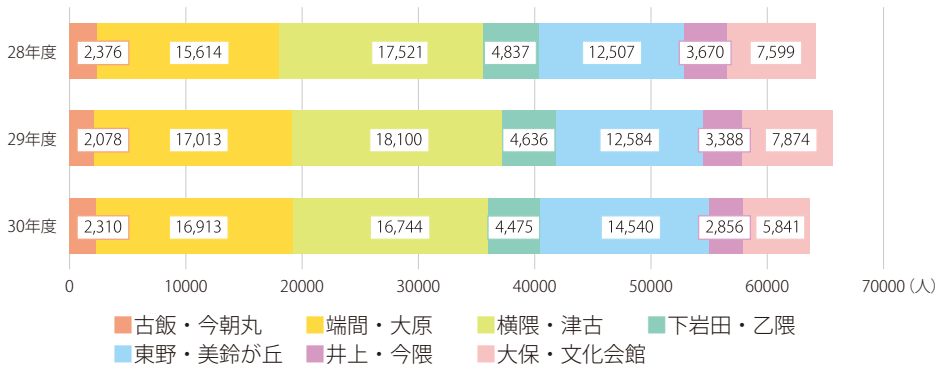
小都市は、南北を西鉄天神大牟田線(7駅)、東西を甘木鉄道(5駅)が走っており、またタクシー事業者は3社あります。市のコミュニティバスは、市内の民間バス路線が廃止される中、市内の交通空白地域の解消に向け、平成16年7月から導入されました。免許を持たない人や高齢者といった交通弱者が、市役所やあすてらすといった公共施設を巡る手段として運行してきました。

■コミュニティバスの現状

コミュニティバスは、当初6ルートで運行を始めた後、11回のルートの変更やバス停の新設を行い、現在4台のバスで8つのルートを運行しています。4台で市内全域を回ると1便あたりの運行時間が長くなるため、便数に限りがあり、往復での利用が難しくなっています。

平成31年4月、バス停の新設、ルートの変更などに併せて、働き方改革による運転手の休憩時間確保などを理由にダイヤ改正を行いました。しかしこの改正により、古飯・今朝丸ルート、下岩田・乙隈ルート、井上・今隈ルートは、1日1往復の運行となり、利用者の皆さんにご不便をおかけしています。

コミュニティバスの乗車人数



■コミュニティバスの課題

市は、コミュニティバス運行のために、年間3,500万円を負担しています。この予算の中で、往復利用、増便などの課題に対して、市全域をコミュニティバスで担うことは困難となっています。ルートによっては1人を運送するために2,000円の経費がかかっているとありますが、このようなルートではコミュニティバスの運行は困難であり、他の交通手段の導入を検討していく必要があります。

また、高齢化が進み、地域に交通弱者が増えていくことが想定されるため、コミュニティバスは買い物や病院などに利用しやすい、日常生活に密着した交通手段へと展開していく必要があります。予算を増やさずに、地域公共交通の利便性を高めることが必要であり、そのためにコミュニティバスだけではなく、他の交通手段を活用すること、目的に特化した運行ルート、移動時間の短縮などを検討することが必要だと考えています。

今回は、交通課題解決のために設置した地域公共交通活性化協議会についてお知らせします。